武庫川女子大学附属総合ミュージアム
Mukogawa Women's University Museum

# Museum News

no.5
2022.11

## ミュージアムの一隅にて　学科史資料への期待

附属総合ミュージアム　館長　横川公子

大学博物館の第一の目的・役割は、大学における高等教育と研究の成果を保存し活用・公開することです。一般的な博物館とは異なる、このような大学博物館の原則的な使命に基づき、学科史資料の発掘と保存が要請されます。学科史資料は、大学博物館における中核資料の一つです。

最近の具体的な例を紹介しましょう。一昨年ご逝去された山本俊治元学長（1922-2020）のご遺族から、日文学科を介して研究資料が寄贈されました。国語学者としての研究成果は国立国語研究所の資料として公開されています。が、個別資料の調書を作成中の学芸員は、「調査当時の、生の言葉で語られる 50 年前の高齢者の日常や若い頃の記憶が興味深い」と、興奮気味に話してくれました。関連研究や、学生の卒業研究の拠り所となる資料群としても、大いに活用が期待されます。

同じく当ニュース掲載の当館所蔵資料に関するコラム「シンガーミシン裁縫女学院の裁縫雛形」も、寄贈された調査研究資料が注目されたものです。

学術資料には、自然史系の一次資料のみでなく、文化的・歴史的に価値づけられる物品も含まれます。研究現場で生成される学術資料は、大学の研究と教育の歴史の拠り所となるばかりでなく、時代と社会、人間のさまざまな営為を映す鏡なのです。

## 開催中の展覧会
## 2022 年度 秋季展
## 「粋（すい）を尽くす ―近現代のきもの」

開催期間：
2022 年 10 月 5 日 ( 水 )
～ 11 月 30 日 ( 水 )
開館時間：10:00~16:30
閉館：土・日・祝日

「武庫川女子大学衣生活資料」は、今までにも様々な視点から取り上げてきましたが、明治・大正・昭和戦前期の時代を集約した文化的・歴史的資料です。これらの資料は、近代的な技術革新やヨーロッパを中心とする外来の意匠や造形的感覚を取り入れ、消費的着用者の増加や都市生活の広がりなどを反映したものであり、江戸時代以前とは社会が大きく変わった中で求められ、着用されてきました。

本展覧会では、こうした近代のきものが実現した様態や価値に注目し、寄贈資料「伊吹コレクション」を中心に展示しています。大正期から昭和戦前期の京都で百貨店や呉服店に誂（あつら）えられた、選りすぐりのきものたちをご覧いただけます。

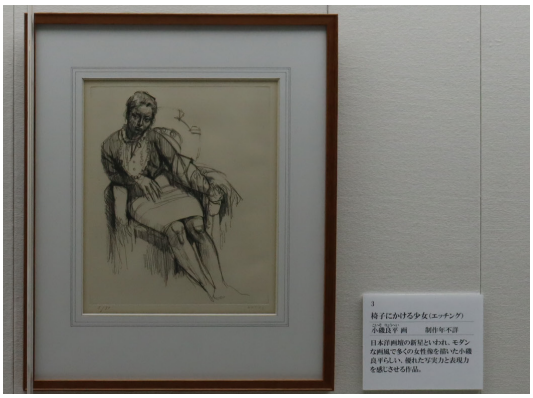
（画像は展示の様子）

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っています。受付に飛沫防止のアクリルボードや消毒用アルコールを設置し、人数制限をして、来館者にはマスク着用、検温、来館者カード記入などでご協力をお願いしています。

展覧会報告

# 2022 年度春季展「所蔵絵画展」

開催期間：
2022 年 5 月 17 日（火）
～ 7 月 14 日（木）
※オープンキャンパス特別開館：
6 月 18 日、7 月 9・10 日



展示の様子

武庫川学院が所蔵する小磯良平や山口華陽（チラシ写真「牡丹花」）などをはじめとする著名な作家の絵画 15 点を、生活環境学科 森本真准教授のキュレーションにより展示しました。会期中 426 名の来館者があり、アンケートでは「武庫女にこのような絵画があることを初めて知った」「静かに鑑賞でき、やすらいだ」「写真が撮れてよかった」「点数は少ないが、内容が素晴らしかった」などの声がありました。

近代絵画研究会開催報告

また、展覧会終了後には実行委員会メンバーによる第 1 回近代絵画研究会が行われ、出展された作品と展覧会について振り返りました。研究会には学内外からご参加いただき、質疑応答や交流が活発に行われました。

開催日時：8 月 4 日（木）14:00~15:30
発表報告：
①森本真（武庫川女子大学 生活環境学科 准教授）
「武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵絵画資料及び展覧会出展作品について」
②伊永陽子
（武庫川女子大学附属総合ミュージアム 助教・学芸員）
「経年劣化した額装とその修繕ポイント及び来館者報告」

発表する森本先生

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っています。受付に飛沫防止のアクリルボードや消毒用アルコールを設置し、人数制限をして、来館者にはマスク着用、検温、来館者カード記入などでご協力をお願いしています。

展覧会報告

# 公江喜市郎の横顔「文房四宝」展

開催期間：
2022 年 9 月 20 日（火）
～ 10 月 20 日（木）

武庫川女子大学創設者である公江喜市郎先生（1897-1981）の遺品資料（附属総合ミュージアム蔵）を活用し、そのお人柄や何気ない一面を学生・生徒・教職員に紹介し、本学やその歴史をより深く知っていただくための企画展示になります。学術研究交流館（IR 館）1 階ロビーの常設展示コーナーにおいて行われました。

公江先生は「竹堂」の名をもつ書道家でもあり、初回のこの度は「文房四宝」をテーマとしました。本学の書道教育と研究に携わって来られた西山明美名誉教授に監修いただき、遺品資料の一部から、机上の再現を試み、多様な筆や印（雅号印）を自筆の色紙作品とともに展示しました。

展示を見る健スポの学生

展示の様子

## 学芸員の仕事について④
# 初の館園実習生受け入れ

附属総合ミュージアム　助教・学芸員　伊永 陽子

附属総合ミュージアムでは博物館学芸員課程を運営し、授業も行っていますが、本年度初めて館園実習生を受け入れました。当ミュージアムの学芸員を始め、スタッフの皆さんの協力を得ての実現でした。館園実習とは、博物館学芸員課程で講義や学内実習を経た学生が最終段階として博物館に赴いて行う実践に当たります。実習生は、本学の博物館学芸員課程履修生のうち 6 名です。9 月 8・9・12・13 日の 4 日間で、館長講話聴講、仮収蔵庫の環境保全活動、「文房四宝展」の展示作業とそれに関わる撮影、常設展示の企画・資料の選定・調査・解説文の執筆など、学芸員が行う多様な実務を現場で体験してもらいました。最終の 5 日目は秋季展会期中に予定していますが、4 日間の実習は、実習生にとって博物館や博物館資料、学芸員業務などにそれぞれが思いを馳せ、課題を発見し、理解を深めたことと思います。4 日間実習を終えた時点での実習生の感想をいくつかご紹介します。

講義風景

芸術館（仮収蔵庫）での作業風景

展示作業風景

・貴重な体験ともに博物館が抱える問題を直に感じ、改めて博物館の存在意義やこれからの運営についてどうすればより良いのかを考える機会となりました。ありがとうございます。（大日 4 年　浦部 夏海）

・展示へという華々しい業務の裏に、資料の保存や整理、館外への広報活動など弛まぬ努力があることに気づけました。学芸員という仕事の難しさとやりがいを知れた実習でした。（大日 4 年　上堀内 愛理）

・座学だけでは得られなかった経験ができて、大変貴重な時間となりました。普段は来館者目線で展示物を見ますが、多くの人に資料への理解を深めてもらう為には、客観的な視点が大切だと気づかされました。
（大日 4 年　小林 舞香）

## 受贈資料紹介①塩野家免状等資料

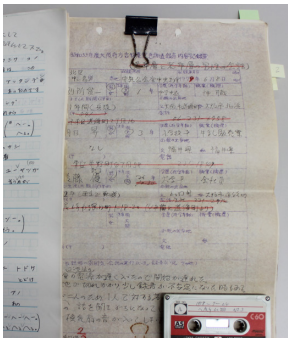
附属総合ミュージアム　学芸員　平 法子

本年 4 月、塩野家免状等資料 44 件 70 点のデータベース登録が完了しました。本資料は塩野ヒロ子氏の学業と稽古事に関する免状で、明治末～大正期の女子教育を理解する上で貴重です。「學藝免状箱」の蓋裏には、『論語』学而篇から引用された「學而五則」が墨書され、氏が「學藝」を修得する上で掲げた指針がうかがわれます。

## 受贈資料紹介②山本俊治先生方言資料

附属総合ミュージアム　学芸員　森 ゆかり

一昨年ご逝去された山本俊治元学長（1922-2020）のご遺族から研究資料の寄贈を受けました。先生は国語学の権威であり、段ボール 6 箱にもなる大阪方言の聞き取り調査の原稿と音源テープが残されました。1970 年代調査当時の人々の生の会話を、「生活の記録」という視点から再確認し、資料として継承することを目指しています。



## コラム：シンガーミシン裁縫女学院の裁縫雛形

附属総合ミュージアム　研究員
生活環境学科講師　池田 仁美

シンガーミシン裁縫女学院は、ミシンの普及を目的とし、明治 39 年（1906）に米国シンガーミシン会社によって有楽町に設立された。同学院は、日本で最初にミシン裁縫に特化した洋裁教育を展開した私立学校である。院長の秦利舞子は、ミシン裁縫教育を女性の自活に繋げることを理念に掲げ、ミシン裁縫及びミシン刺繍の教育指導をおこなった。

本学附属総合ミュージアムでは、同学院の教育過程で製作された裁縫雛形を所蔵している（資料 ID33168～33260）。裁縫雛形は、ミシン裁縫全科に明治 41 年～42 年（1908-1909）の期間通っていた生徒のご親族から寄贈頂いたもので、ミシン裁縫教育黎明期の教育実態を窺い知る貴重な資料である。

同学院の裁縫雛形は、実物の 1/2 または 1/3 の縮尺で製作されており、男性・女性用の洋装や被り物が主な製作物である。裁縫雛形を用いた教育方法は、東京裁縫女学校の渡邉辰五郎が考案したもので、時間や費用の面で効率的に技術習得ができることから当時の裁縫教育現場で積極的に取り入れられた。渡邉辰五郎は女子高等師範学校でも教鞭をとっており、同校出身の秦利舞子による雛形製作とミシン裁縫教育の関連が示唆される。

図1、2は、看護服の裁縫雛形（資料 ID33239）で、縫い目は全てミシン縫いである。縫い代の処理は折り伏せ縫いで、袖付けのみバイアステープ仕上げとなっていた。袖山とウエスト部分のギャザーは細かく均一で、ギャザー寄せの付属具（アタッチメント）使用の特徴が見て取れる。ギャザーは洋裁特有の立体表現で、同学院の女性用洋服雛形に多く見られる。

雛形製作の場合、製作物の大きさは小さくなるが、ミシンの押さえや付属具のサイズは実物大と同じものを使用するため、袖ぐりや手首周りなど周経の小さい部分の縫製が困難になる。裁縫雛形の製作は、実物大での製作より慎重かつ正確なミシン操作が必要とされ、結果的にミシン操作技術の向上につながったのではないだろうか。

図1　看護服の裁縫雛形(63.5cm×47.0cm)
（武庫川女子大学附属総合ミュージアム所蔵）

図2　看護服の裁縫雛形(部分)

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Museum News no.5　2022 年 11 月 発行
663-8558
西宮市池開町 6-46 学術研究交流館（IR 館）4・5 階　Mail　haku@mukogawa-u.ac.jp
TEL（0798）45-3509 / FAX（0798）45-9994　HP　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum

Museum HP

MAP

ニュース内で使用しているイラストは附属総合ミュージアムで作成しました